



池之上公園（現在の鹿屋中央公園付近）を望む

昔

昭和43年



今



左の写真は、現在の市営八之尾墓地（新生町）^{やつのお} 辺りから北側の台地を写した一枚。現在、市体育館や市武道館が建つ場所は、更地だったことがわかります。広く市街地を展望でき、かつては「鹿屋八景」の一つにも名を連ねた池之上公園は、公園整備によって現在は鹿屋中央公園へと名称を変え、今も市民の憩いの場となっています。



昭和40年代の桜デパート。現在、跡地は「まちなかパーク駐車場」となり、中心市街地を訪れる人たちに利用されている。

戦後から平成にかけて、鹿屋のまちでひとときわ輝きを放っていたのが、北田町にあった「桜デパート」です。桜デパートは、家族や友人との買い物やレストランでの食事、屋上遊具等を目当てに市内外から多くの人が訪れる、大隅随一の百貨店でした。

昭和20年の「桜商会」創業に始まり、桜デパートは昭和28年に県内2番目のデパートとして開店。その後、人気が広がるにつれ規模を拡大し、地下1階地上7階建て、延べ床面積約9,200㎡を誇る



9月16日、創業者の立元明光さんが99歳でご逝去されました。故人がこれまで遺された多大な功績を称えるとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。 ※平成23年撮影

その後、桜デパートは市民から惜しまれつつも平成6年に閉店。しかし、まちと市民に夢を与えた鹿屋のシンボルとして、桜デパートは市民の記憶の中に今も刻まれています。

その後は、桜デパートは市民から大型百貨店として、市民から親しまれました。名物の桜まんじゅうは、多い時で1日平均2千個販売されたといえます。また、寿や西原などにも店舗進出するなど、最盛期には860人ももの従業員を抱える一大企業に成長しました。



休日は桜デパートだけでなく周辺も買い物客であふれた。(昭和40年)

カノヤタイムトラベル

まちに夢を与えた桜デパート

昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ!